

## 5. 今月のトピックス「カンキツの黒点病について」

### ◆被害の様子◆

黒点病は病原菌がカンキツに感染した際に組織の表面に黒点状の病斑をつくる病気です。通常は散在した小さな黒点状の病斑ですが、ひどい場合は涙斑状や泥塊状の病斑をつくります。葉や枝にも発生しますが、特に果実に発生した場合は著しく商品価値を下げます。(図1、図2)



図1 果実の病斑



図2 葉の病斑

(三重県農業研究所紀南果樹研究室原図)

### ◆伝染の経路◆

黒点病菌は枯枝で越冬します。枯枝上で形成された胞子が雨滴により若葉や新梢・果実に伝搬され、気温 20～27℃で感染します。

本病の部位別の発生時期は表1のとおりです。

表1 黒点病の発生時期

部位	初発期	最盛期	終期
葉	5月中旬	6月中旬	7月下旬
果実	6月上旬	7月～8月	10月下旬

また、病原菌は樹冠内や落ちている枯枝にも感染し、次の感染への温床となります。(図3)

黒点上で胞子につくられないので、葉や果実の黒点からの二次感染はありません。



図3 樹冠内の枯枝

### ◆防除対策(防除のポイント)◆

- 1) 枯枝・剪定枝が主な感染源です。樹冠内や圃場内の枯枝切りを徹底し、剪定枝とともに除去してください。
- 2) 薬剤散布時期は5月中旬～6月上旬、6月下旬～7月上旬、7月中下旬、8月中下旬です。
- 3) 2回目以降の薬剤散布は、前回散布後30日または散布後の積算降水量が200mm～300mmに達した時を目安に行ってください。